『在宅療養を安全にスタートするためのチェックシート』 Ver.1

主治医への報告・連絡・相談は随時必要！

《ポイント》
◎『意思決定支援』の認識が重要（**意思決定支援とは、文字通り「意思」を「決定」することを「助ける」**という意味）
◎可能な限り本人の生活に合った方法に切り替えて予防的な支援をする。
◎本人の意思を尊重し、著しくQOLが障がいされたり、生命リスクが高まったりした場合には、必要時速やかに医療に繋ぐ支援をする。

STEP1 医療ニーズが高い利用者像をチェックしましょう	対応する医療サービス（優先順）	根拠
1 医療機器等を装着している状態である	◆医療の状況やリスクを共有することで、チーム全体で安全なケア計画を立て、ＱＯＬの向上や自立を支援	
□ カテーテルの留置（膀胱、腎、胆管も含む）	訪問看護	感染予防　排泄機能のアセスメント
□ 人工呼吸器の使用	訪問看護・リハビリ	医療機器の管理　各種合併症の予防
□ たん、唾液の吸引	訪問看護・リハビリ	有効的な排痰援助と肺炎の予防
□ がん性疼痛のコントロール（注射・内服液）	訪問看護・薬剤師	薬の正しい理解と痛みアセスメント
□ 気管切開カニューレ装着	訪問看護	感染予防とカニューレトラブルへの予防と対応
□ ストマの装着（大腸・尿路）	訪問看護	排泄管理とストマ周辺の皮膚トラブルの予防・管理
□ 在宅酸素療法	リハビリ・訪問看護	呼吸機能の評価・正しい呼吸方法の獲得
□ 経管栄養チューブ（胃ろう含む）の使用	訪問看護・栄養士・薬剤師・歯科	挿入部の皮膚・粘膜トラブルの予防　栄養状態のモニタリング　簡易懸濁法等適切な薬の注入方法の検討　口腔機能の評価、改善
□ 中心静脈栄養、持続点滴	訪問看護・栄養士・薬剤師	安全な管理　摂食嚥下・栄養の改善　ルート・針の選定の際の助言
□ 腹膜透析	訪問看護・栄養士	感染の予防　食生活の支援
□ インスリンの自己注射	訪問看護・栄養士・薬剤師	インスリン管理　食生活の支援　本人にあった薬剤の形態の評価
2 皮膚・爪のケアが必要である	◆長い間の生活や動作の結果であることを理解し、生活様式全体を評価し再構築	
□ 爪に問題がある（陥入爪、感染など）	訪問看護・リハビリ	感染の予防　歩行障がいの予防
□ 褥瘡がある	訪問看護・リハビリ・栄養士・薬剤師	傷の処置　栄養、介護方法、動作の改善　寝具やマットレスなどの評価と選定　薬剤や創傷被覆材の選定・使用法の助言
□ 皮膚に傷があり（潰瘍、熱傷、白癬、など）治りにくい	訪問看護・薬剤師	糖尿病などの基礎疾患との関連性やケアの評価　医療材料の選定の際の助言
3 医療的な視点でのリスク管理（入院を予防）が必要	◆治療が生活の弊害にならず、健康を取り戻すための支援	
□ 治療食をたべている	栄養士・訪問看護・薬剤師	本人の生活にあった食事の改善や工夫
□ 薬を飲んでいる	薬剤師・訪問看護	服薬アドヒアランス向上サポート　残薬調整、ポリファーマシー対策の検討
□ がん治療中（薬・放射線）	薬剤師・訪問看護・栄養士	副作用や栄養の評価・改善
4 慢性疾患がある	◆生活の中に潜在する病状悪化の要因を排除し、生活の質低下を防ぐための支援	
□ 慢性閉塞性肺疾患	リハビリ・訪問看護・栄養士	廃用性のADL低下の予防
□ 腎不全・心不全	栄養士・訪問看護・薬剤師	尿量を確認しながら、安全に服薬してもらうサポート　栄養状態のモニタリング　食生活の支援
□ 尿路感染を繰り返している	訪問看護・薬剤師	排泄状況と繰り返す原因の評価　適切な薬の選択・副作用の評価
□ 肺炎を繰り返している	歯科・リハビリ・訪問看護	口腔・嚥下機能の評価とケア
□ 認知症・精神疾患がある	訪問看護・リハビリ・薬剤師・ＰＳＷ	潜在している心身の状態を評価
5 口の中・食べること・栄養に問題がある	◆生きることや活力の基本である「食べること」を見直すための支援	
□ 摂食・嚥下に問題がある	歯科・リハビリ・栄養士・訪問看護・薬剤師	摂食機能の評価・回復　食事形態・ポジショニングの工夫　補助栄養食の活用検討
□ 痩せている。BMI（体重÷身長m÷身長m）が18.5未満	栄養士・歯科	低栄養の原因を評価し、改善
□ 過去3か月で体重が減少した	栄養士	体重減少の原因を評価し、改善
□ 噛めない、または、噛むことに問題がある	歯科・リハビリ・訪問看護・栄養士	咀嚼機能の評価・改善　虫歯、歯周病、義歯の問題改善　食事形態の工夫・ポジショニングの工夫
□ 口臭・口腔内食物残差がある	歯科・訪問看護	口腔内疾患の予防　誤嚥性肺炎の予防
6 排泄	◆自立した排泄ができ精神的苦痛や自尊心低下がないよう支援	
□ 対処できていない便秘や下痢がある	訪問看護・薬剤師、リハビリ・栄養士	原因を評価し、排泄の状態を改善
□ 尿失禁や頻尿、排尿困難がある	訪問看護・リハビリ・薬剤師	薬の副作用の可能性を評価
7 睡眠	◆生活の中に潜在する睡眠障害の要因を排除し、本来の生活機能を取り戻すための支援	
□ 昼夜逆転している	訪問看護・薬剤師・リハビリ	原因を評価し、睡眠状態を改善
□ 不眠である	訪問看護・薬剤師	
8 活動性の低下	◆身体機能の改善及び環境の整備を行うことで、住み慣れた場所で安全に暮らし続けられるための支援	
□ 以前に比べADLが低下し、生活の再編が必要	リハビリ・訪問看護	ADLの評価、改善の可能性、生活環境の評価・環境（人的・物的）の再編
□ IADLに問題がある。	リハビリ・訪問看護・歯科・栄養士	今後ADLの低下の可能性も含めた評価
□ 進行性の神経難病である。	リハビリ・訪問看護	廃用性のADL低下を予防
□ 転倒歴がある。	リハビリ・薬剤師・訪問看護	転倒リスクの評価　生活環境の評価・環境（人的・物的）の再編
9 状態の変化により、在宅療養生活に不安がある	◆自分らしい生活や限り有る「生」を充実させるための支援「人生の最終段階における医療の決定に関するガイドライン」を踏まえる	
□ 急な病状変化に対する不安がある	訪問看護（24時間対応型）	不安の原因を究明し解消
□ 終末期であるが本人の意思が不明瞭・不安が強い	訪問看護・薬剤師	死への不安や苦痛を緩和できるように支援

※栄養士やリハビリなど地域の資源が不足の場合は、訪問看護に相談・検討

⇒ **チェックが入った項目に対応する専門職等と連携しながら、生活の質を維持・向上できる"在宅ケアチーム"をつくりましょう。**

通院が可能か、通院を継続することで生活の質の低下が予測される場合は、早めに在宅医療への移行を検討しましょう。

ケアプランの作成に当たっては相談先をあらかじめ決め、すぐに対応できるよう備えておきましょう！

窓口⇒主治医・在宅医療・介護連携相談支援窓口・訪問看護ステーション（教育ステーション）
地区歯科医師会（在宅歯科ケアステーション）・（公社）大阪府栄養士会(栄養ケア・ステーション）等

STEP2 さらに利用者の背景をチェックしましょう

さらに介護・福祉と包括的に関わる必要があると予測されるもの

- □ 独居である
- □ 介護者の理解が不良である
- □ 介護者の疲弊が予測される
- □ 虐待等を含めた介護状況に問題がある可能性がある
- □ 家族背景・経済背景などに何らかの事情がある
- □ 24時間365日対応を要するような状態である
- □ 入退院を繰り返している
- □ サービス拒否がある
- □ 不衛生な室内環境

《補足説明》
【アドヒアランス】
患者が治療方針の決定に賛同し積極的に治療を受ける

【ポリファーマシー】
多剤併用・多剤処方
→必要以上に多くの薬を併用している状態

2018.3　大阪市在宅医療・介護連携相談支援コーディネーター作成資料を、大阪府退院支援・在宅療養における多職種連携のあり方検討会において改編